



義太夫協会会報
第99号

平成 26 年 7 月 1 日

一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045
東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 17F
Tel. 03(3541)5471
Fax. 03(3546)2334
<http://www.gidayu.or.jp>

花のように香れ

児玉 信

昨年五月に、はからずも義太夫協会の監事
を仰せつかり一年余が経過しました。一ファ
ンとして義太夫を客席から楽しむ：そこに、
内側の人間として協会の仕事にも目を配って
いく立場が加わったわけです。責任を感じて
いることはもちろんですが、今はいい機会を
与えていただいたことに感謝してもいます。
不思議なのですが、監事就任の前後から女
流義太夫との新しい接点が連鎖しました。ま
ず一つ――。
私は埼玉県蕨市に住んでいます。JR蕨駅
のすぐ近くに「蕨市立文化ホールくるる」と
いう施設があり、年間自主事業の企画の幾つ
かを担当させてもらっています。昨年一月に
は竹本駒之助さんをはじめとする豪華な顔ぶ
れで巳年に因んだ「女流義太夫十」公演を行

いまして、その打ち合わせのなかで、昔、
越若という方が住んでいたという話を聞きま
した。これがきっかけになり、今年一月のく
るる一日体験事業「学んで楽しい伝統文化」
に義太夫を加えて越若さんを講師としてお招
きしたのでした。

二つ目は、平成二二年十一月に行つた「三
回忌追善 竹本朝重さんを偲ぶ会」の折に私
が編集したパンフレット『二代目竹本朝重』
を、昨年のある機会に町内の婦人会会長さん
に差し上げたことから始まりました。その方
は鶴澤清三さんの娘さんだったのです。後日、
写真など遺品を携えて我が家をお訪ねになつ
たことから初めて知りりましたが、その遺品を
水野悠子さんに預けようと思つて連絡したら、
ご遺族の消息を探しておられたとのことであ
り、度々びっくりです。
こうした縁の重なるの延長線上に、くるる
の自主事業の一つとして今年度から伝統芸能
の若手に場を提供したいという話が出ました。
年間三回の枠を設けるといいます。表題の「花

のように香れ」公演誕生のいきさつです。芸
の向上を目指すとともに、かつてのように女
流義太夫がときめくことも願つて命名しまし
た。
六月十四日に旗揚げ。会が上手く育つてく
れることを期待しています。

児玉 信（こだま まこと）



昭和二一年、浜松市生まれ。國學院大學文学部
卒業。大学在学中に民俗学の泰斗折口信夫ゆかり
の芸能学会で研究機関誌『月刊 藝能』の編集に
携わる。昭和四七年、観世流・金剛流謡本発行の
書肆・檜書店に入社。観世流機関誌『月刊 観世』
の編集者となる。編集主任を経て平成元年退社。
以後、伝統芸能一般の企画制作などフリーで活動。
石川県音楽文化振興事業団邦楽プロデューサー。
現在は日本大学芸術学部演劇学科・実践女子大学
文学部美術史学科非常勤講師。著書に『ぶら
り東海道 五十三次芸能ばなし』など。芸能学会
常任理事。

通常総会開催

五月十八日(日)築地社会教育会館第三洋室にて通常総会が開催された。

平成二五年度に発足した「財政再建委員会」が昨年十二月にまとめ、理事会に提出した提言と、それに伴い理事会と事務局が実施した改善策等が報告された。

また、「祖先祭」(十月五日・両国回向院)を、昨年度に続いて賛助会員や一般の方を対象としたイベントとして行う方針、新たな協会主催公演「花のように香れ」(第一回―六月十四日・蔵市立文化ホールくるる)決定等が発表された。

役員改選選挙も行われた。新たな役員は左記の通り(五十音順)。

【会長】波多 一索

【理事】上田 悦子(竹本駒之助)

小島美恵子(竹本土佐恵)

高橋 孝子(竹本越孝)

立花 繭子(鶴澤津賀寿)

西野 宗佑(竹本弥乃太夫)

柳瀬 信吾(竹本葵太夫)

竹本綾一

新人奨励賞受賞

竹本綾之助門下の綾一が、当会の新人奨励賞を受賞し、三月のお江戸日本橋亭公演で受賞記念演奏として「恋娘昔八丈」(鈴ヶ森の段)を語りました。

もともと歌舞伎ファンだったという綾一ですが、劇場で「義太夫教室」のチラシを目にし、受講―「そこで、すっかり義太夫にハマってしまつた!」そうです。

その後、その時の講師であつた綾之助に入門、師匠の前名を継いでプロとしての道を歩む事となりました。

それから九年。最近は趣味のダイビングをしに八丈島へ渡る事もなくなった、との事ですが、夢は、八丈島で黄八丈の肩衣を付けて「鈴ヶ森」を語る事だそうです。



モットーは「一生懸命」という綾一。これからも、皆様のあたたかい応援をよろしくお願ひします。

(竹本佳之助)

義太夫教室ニユース

三月八日に、義太夫教室第六六期卒業発表会・OB演奏会が行われました(於・スペース汐留)。

新卒ホヤホヤの六六期生。当日は先ず三味線受講生による「太棹メドレー」で幕が開きました。教室の卒業生たちによる演奏を挟んで、会の中盤には語りの受講生による「加賀見山旧錦絵」草履打の段(指導・竹本越若)、そしてプログラムの最後にも語りの受講生による「仮名手本忠臣蔵」裏門の段(指導・竹本土佐恵)と、三度にわたつて六六期受講生の勉強の成果が披露されました。

そして年度が改まり、義太夫協室第六七期(入門コース)が、新たに四月十九日に開講致しました。義太夫教室は、次代の文化を創造する新進芸術家育成事業(文化庁委託事業)です。恒例の講義のほか、今年度の実技では「一谷嫩軍記」須磨浦の段(指導・竹本土佐恵)、「菅原伝授手習鑑」寺入りの段(指導・竹本越京)を稽古しています。

義太夫教室は期の途中からの参加や、単発の聴講も可能です。また中級からの参加も可能です。お気軽に事務局までご相談ください。

また、語りと三味線の一日体験教室は二月八日(講師・竹本越若、鶴澤駒治)と、四月十二日(講師・竹本越京、鶴澤寛也)に行われました。

夏の一日体験教室

開催日程決定

今年も、夏に義太夫・三味線一日体験教室が行われます。初めての方、しばらく実技から遠ざかっていた方、また夏休み期間中の生徒さんなど大歓迎です。お知り合いの方にも、ぜひお勧めをお願いします。

日時 八月二三日(土)

三味線コース 十一時～十二時三〇分

講師・鶴澤寛也

料金・四〇〇〇円 定員・十五名

語りコース 十三時三〇分～十五時

講師・竹本土佐恵

料金・三〇〇〇円 定員・三〇名

会場・豊川稲荷(東京別院)文化会館3F

東京都港区元赤坂一ノ四ノ七

東京メトロ銀座線 丸ノ内線

赤坂見附駅 B出口 徒歩五分

東京メトロ有楽町線 半蔵門線 南北線

永田町駅 七番出口 徒歩五分

お問い合わせ・お申し込みは義太夫協会まで

電話 〇三―三五四一―五四七一

FAX 〇三―三五四六―二三三四

am-giday@gidayu.or.jp

協会として初の試み

クラウドファンディング

現在、日本国内はもとより、海外においても資金調達の新しい手法、「クラウドファンディング」が注目されております。クラウドファンディングとは、明確な目的・目標額を持つて、インターネット上で支援金の公募を行うシステムです。今回、私共は日本で初めてクラウドファンディングを手がけた『READYFOR?』というクラウドファンディングサービスをご紹介いただき、資金難の折、なかなか進めることのできなかつた傷んだ見台(けんだい)の修復に取り組みました。

現在では決して日常的に見聞きするとはいえない「義太夫節」という芸能に使う道具「見台」について、どれくらいの方々が感心を持つていただけるのか、正直なところ全く見当が付きませんでした。『READYFOR?』が用意して下さっている専用サイトには「プロジェクト」という形で、全国の様々な地域の沢山のプロジェクトが、それぞれ達成したい事業と目標額を掲げてアピールなさっています。その中で私共のプロジェクトを見てくださる方々に、少しでもわかりやすく内容をお伝えするために、見台の写真を撮ったり、ご支援の金額に応じてお送りする品や公演チケットの組み合わせを考え、当初の予定より一ヶ月遅れの二月十七日によくスタ

ートすることができました。

いざ、プロジェクトがインターネット上で公開され、関係者にその旨をお知らせしたところ、周囲の方々へとどんどんご支援の輪が拡がり、十日後の二七日には目標額を達成することができました。その後もご支援は続き、最終的には目標額を大きく超えた金額となり、二台目の修復にも着手する予定です。

見台は職人さんの手によって、螺鈿の欠けた部分が直され、取れてしまった脚の部分や、剥離してしまつた漆も補修され、再び舞台で使える姿になりました。修復が済んだ見台は、義太夫協会主催「女流義太夫演奏会十月公演」にて皆様にお披露目させていただきます。

ご支援をいただきました皆様にはこの場を借りて、改めて御礼を申し上げます。有難うございました。

(義太夫協会事務局)

竹本朝輝が

松尾芸能賞特別賞受賞

竹本朝輝が第三五回、松尾芸能賞特別賞を受賞し、三月二八日に東京都内のホテルで贈呈式が行われました。

受賞事由として、地方の地芝居や子供歌舞伎、人形芝居等への浄瑠璃太夫としての貢献をはじめ、国立劇場での研修や岐阜での教授活動、芸の評価などが挙げられました。

「竹本越道を偲ぶ会」の

お知らせ

前回の会報で、竹本越道師匠の訃報をお伝えしたばかりですが、早いもので一周忌を迎えるこの九月に追善公演をさせて頂くこととなりました。

九月二〇日(土)、お江戸日本橋亭にて、昼夜二回公演となります。

昼の部は、越道一門による演奏です。師匠亡きあと、心細く思うこともありましたが、「泣いている暇があつたら稽古しなさいよ!」と師匠ならおっしゃるでしょう。師匠に恥かしくない演奏をしなければと、稽古に励む日々です。

夜の部は、まずは「蝶の道行」。次に「伊勢音頭恋寝刃」を掛け合いで演奏致します。夜の部二演目だけでも、出演者総勢十六人という豪華メンバー。日本橋亭でこれだけ並ぶのは史上初かと思いますが、賑やかなことがお好きだった師匠のこと、きつと喜んで下さると思います。

演奏会の内容につきましては、後日配布するチラシに掲載させて頂きます。

師匠の語りを愛して下さった多くのお客様にご来場頂きたく、この場をお借りしてお知らせ致します。

(竹本越春)

祝百回!

大日本素義会

五月晴れの五月二四日、浅草鳥越神社にて百回記念の会が催されました。

全三二番。朝の九時半から夜の八時過ぎまで、熱演が繰り広げられました。出演者は十代から八十代まで、文字通り老若男女。また近年国際化著しい?素義会ですが、今回は若いアメリカ女性の参加がありました。お客様も下足箱があふれる程の、大盛況でした。

サプライズ番組として、森江宏太氏作詞(注)による「三番叟」が演奏され、駒之助・綾之助両師の語りに、菅野昌行会長が思わず涙ぐむという場面もありました。「三番叟で泣いたのは初めて」という会長は、第一回目から五〇年に亘りご出演なさっています。

昭和三八年に文楽のそうそうたる師匠方が審査する「審査会」として始まった会も、現在では演奏会形式となりました。会長は、形式は変わっても、素義会を担ってきた諸先輩の、義太夫道を楽しむという精神、心意気は大事にしていきたい、また大阪、名古屋の素義会は既になくなってしまうので、東京はぜひ続けていきたい、と力強く語ってくださいました。

時代は変わっても、義太夫を楽しむという気持ちは皆一緒。義太夫界にとつて、過去も未来もなくはならない、素義会の皆様。この度は、本当におめでとうございました。(竹本佳之助)

(注)素義会百回記念 三番叟(一部抜粋)

それ豊秋津州の大日本百を数へし素義会の

鳥越の森によりつどひ

浪速(なみはや)わたり浄瑠璃の

江戸に広まり

うなる素人のその様の

語るも弾くも面白く

ア、ラ目出度やな。ものに心得たる。

床の太夫殿に見台申そう。

ちよううど床が回つて候。

誰がお語り候ぞ。

五十年(いそとせ)降る朋輩つれ友達。

義太夫を習ひて籠り立ちて候。

今日の素義会。義太夫しかと

尋常に語り手おりそへ。この

晴れの肩衣召して。

この晴れの肩衣召して。今日の

素義会を。五十年(いそとせ)百回を

迎へ。千秋万歳所繁盛と

語りようずる事は。何よりもつて

安うぞう。まず。素義の太夫殿。

見台の前へおもおもと御直り候へ。

それがしが見台の前へ直ろうずる

事ハ。尉殿の舞よりもいと安うぞう。

三味のうては直り候まじ。三味弾き給へ。

御直り候へ。

御弾き候へ。

あら ようがましや。

さらば三味を参らせふ。
そなたこそ

柳は緑花は紅数々や
浜の真砂は尽きるとも
尽きせぬ浄瑠璃鳥越の
習ふ義太夫いや栄へ楽しむ
五十年(いとせ)めでたけれ



菅野昌行会長(左)



三番叟

シリーズ人物像

竹本綾之助 編 第二回

長唄はずっと続けていて、先生(杵屋正佐江先生*)には非常に可愛がっていただきました。会があったら、どの曲でもトメとか、いろいろどこかしらに並んでいました。

先生は正治郎派で、私が「まかしよ」やりたいですってお願いしたのですが、それは私知らないのよ、って言われたのを覚えてます。色々な曲をやりましたよ。「綱館」とかで、家へ帰ってくると有名な「秋色種」や「吾妻八景」「松の緑」などを家族で歌ってました。

隣には三味線屋のおじさんが住んでいてね。彼も長唄をやっていたのですが、稀音屋の研精会系の長唄だったので、節をとっても細かく歌う。その複雑な節を歌えるのが自慢でね、私の家に歌いに来ちゃうの。インパクトが強かったので子供心にゾーっとしちやつて(笑)。でも家族は大歓迎でした。

楽譜ですか？三味線用には、あの赤い表紙で横書きの三線譜を使っていたんですが、子供の頃のことだから覚えが早くて、ピツツて頭に入って来ちゃうから、当時楽譜は必要なかったです。最初に唄を教えて下さるでしょう。で、次に三味線っていうと、もう弾けちゃったの。唄用に歌詞だけが書いてある唄本は使っていました。踊りも、中学卒業する頃

に先生が亡くなるまで続けていました。

父方のもともとの出身は信州長野の中野村で、祖父は大の義太夫好き。蓄音機でレコードを繰り返し繰り返し聴いていました。祖父が「サイ！」って言うとうちがハンドル回してかけ直してました。「サイ」は「再」ではないかと思えます。父の名は栄三といって、家の前は呉服屋さん。色白で、誰も締めていないような洒落た帯を締めていたと、陸前高田にお嫁入りした伯母が言っていました。

祖父は銀座で喜多村屋さんっていう象牙商、美術商に、郵便局もやっていたのですって。とても信仰深い人で、銀座の家の二階にあった何十畳もある広い部屋で、浄土真宗の法座を開いていたそうです。そこで、たまに義太夫の会があったということを伯母から聞きました。私の親がまだ小さかった頃の昔の話です。そのことは親は知らないです。

ちなみに画家の佐伯祐三と、妻の佐伯米子(旧姓池田)が、大正十三年と昭和二年の二度なりに渡っています。祖父はその旅費を援助したということでした。そのご縁があるので、最近、私は佐伯祐三さんの展覧会に行きましたよ。

義太夫の師匠のところには親が連れて行ってくれました。三代目綾之助師匠のところに行つた理由ですか。優しそうな御師匠さんだったからでしょうね。芯がしっかりしていて、きつところもある御師匠さんでしたよ。

入門したての頃は、若い子がいなかったものですから、大歓迎されました。ご連中さん

がいつばいいいて、その中に学者さんみたいな人がいらしたんです。その方が、「綾之助さんのところに来た最初の弟子だから、綾一でいいよ。」っておっしゃって、それで私の芸名が綾一になったんです。師匠の所に最初に行ったのは十九歳だったと思います。

私の家のすぐ近所に、小米（こよね）さんという箱屋さんが住んで、その人は豊澤猿幸さん付きの箱屋さんをやっていた人だから私の家に来てね、「だんなく、どうして私を通してくれなかったの？」って。私を猿幸さんのところへ連れて行きたかったみたい。でも私が綾之助師匠の所へ行っちゃったものだから、そんなことを言われました。

（聞き取り 鶴澤三寿々）

※ 先号の「稀音家正佐江」先生は「杵屋正佐江」先生の誤りでした。ここに訂正し、お詫び申し上げます。



19歳の入りたて。鶴澤紋弥の会にて、三代目綾之助師匠（右）と一緒に。

協会の動き

【平成二五年十二月から

平成二六年六月まで】

*主催公演

平成二五年十二月二〇日（金）

女流義太夫演奏会

於 紀尾井小ホール

平成二六年一月二〇日（月）

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

二月二五日（火）

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

三月二〇日（木）

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

四月二三日（水）

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

五月二〇日（火）

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

六月十四日（土）

第一回「花のように香れ」

於 蕨市立文化ホールくるる

六月二五日（水）

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

*義太夫教室

平成二六年一月十一日（土）～三月二二日（土）

義太夫教室六六期上級

於 豊川稲荷文化会館

三月八日（土）

義太夫教室卒業演奏会・OB会

於 スペースSF汐留

三月二九日（土）

一日体験教室

於 豊川稲荷文化会館

四月十二日（土）

一日体験教室

於 豊川稲荷文化会館

四月十九日（土）

義太夫教室六七期入門コース

於 豊川稲荷文化会館

*関連公演・学校公演

平成二六年一月十一日（土）

「初春ぎだゆう座」公演

於 お江戸両国亭

二月一日（土）・二日（日）

「ぎだゆう座」公演

於 お江戸上野広小路亭

二月十二日（水）～十四日（金）

平成二五年度文化庁学校巡回公演

三月一日（土）・二日（日）

「じよぎ」公演

於 お江戸上野広小路亭

三月十五日(土)
第四回邦楽演奏会

於 国立小劇場

四月一日(火)・二日(水)

「ぎだゆう座」公演

於 お江戸上野広小路亭

五月一日(木)・二日(金)

「じよぎ」公演

於 お江戸上野広小路亭

五月二十四日(土)

第百回大日本素義会

於 鳥越神社内白鳥会館

六月一日(日)・二日(月)

「ぎだゆう座」公演

於 お江戸上野広小路亭

■今後の予定■

【平成二六年下半年】

*女流義太夫定期演奏会

七月二三日(水) 国立演芸場

八月十八日(月) お江戸日本橋亭

九月二〇日(土) お江戸日本橋亭

竹本越道一周忌追善公演(二部制)

十三時半(昼)・十七時(夜) 開演

十月二三日(木) 国立演芸場

十一月二〇日(木) 国立演芸場

十二月十八日(木) 紀尾井小ホール

十七時半開演

・注記のないものは十八時半開演。

十月四日(土) 十八時半開演予定
第二回「花のように香れ」

於 蕨市立文化ホールくるる

*義太夫教室

【義太夫・三味線一日体験教室】

八月二三日(土)

【六七期実践コース(実技)】

九月十三日(土)〜平成二七年三月二一日(土)

会場 豊川稲荷文化会館3F

寄贈(二〇一三年十二月〜)

二〇一四年五月 五十音順)

河野国声様御子息様

床本柄オリジナルクリアファイル 五百枚

宮城三次様(豊竹團照師ご遺族)

三味線三挺、稽古本多数

豊島佳子様(竹本春華師ご遺族)

三味線一挺

寄付(二〇一三年十二月〜)

二〇一四年五月 五十音順)

石山岩男様(初代竹本綾之助師ご親族) 三万円

大日本素義会様 六万円

編集後記

いよいよ次号は、百号です!

会報編集委員/鶴澤寛也(編集長)・

竹本佳之助・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々

編集協力/(一社)義太夫協会 事務局

爆笑義太夫
いまごろはよしやさん...
お慶敷に声とおかけください



竹本駒之助連中 よしや

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品
の御注文承ります。



きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

義太夫を聴く会 金沢

2014年

7/27(日)



加賀見山旧錦絵 長局の段

浄瑠璃 竹本 駒之助 三味線 鶴澤 津賀寿

18:00開演(開演30分前に開場) チケット 8,000円(大学生以下 4,000円)

金沢学生のまち市民交流館 石川県金沢市片町 2-5-17

●ご予約・お問い合わせ先 TEL. 090-7599-7509 budouyoru@gmail.com

永谷

暑中お見舞い申し上げます

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭

お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭

新宿永谷ホール

地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

代表取締役	渡 辺 康 成
常務取締役	高 山 早 苗
専務取締役	渡 辺 貞 穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684